

団体名	船橋の民話をきく会		
事業名	子ども達に船橋の民話を、のこす・つたえる・ひろめる・とどける事業	種別	Ⅱ型(1年目)

課題

- ① 市内には多くの民話があるが、専門家、関係者向けの記録用保存を目的とした文献が多く、広く市民になじみがない。
- ② 船橋市は市街からの転入者の割合が増えており、古くから地域に伝わる民話がどんどんきえゆく状況にある。

本と紙芝居の作成とそれらを使った講座の開催、本の配布

【目的:船橋の民話を後世に伝えていく】

事業内容・目的

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 何を? 船橋に伝わる民話の本 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 何冊? 132冊 | 作成した本や紙芝居を使って講座を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、未実施となった。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 配布先は? | |
| 市内の小中学校、図書館、郷土資料館、各図書館(国立、県立、近隣市)、近隣市民話の会 他 | |

事業費(A)	445,609円	支援金(B)	227,804円
---------------	-----------------	---------------	-----------------

(事業収入:なし) (事業費に占める支援率(B/A):50.0%)

事業費内訳

1	書籍デザイン	200,000円	5	施設使用料	2,130円
2	書籍印刷	146,599円	6	その他コピー代等	15,380円
3	書籍送料	41,500円	1~6 合計(A)		455,609円
4	紙芝居製作	50,000円			

効果

市内の各地に伝わる民話を1冊にまとめ、記録保存の意味合いが強い文献ではなく、市民や子どもたちが手に取りやすい本として作成し、配布したことで、船橋市民が地域に親しみや愛着を持つ一助となった。

工夫したこと

- ・ 多くの人に手に取ってもらえるよう、サイズ、ページ数、紙質、デザインにこだわった。
- ・ 子どもにわかりやすいよう、ストーリーを再編集し、見開きにお話 MAP を入れた。
- ・ どのページを開いても話の世界が広がるよう、挿絵や写真を多くし、コラムを書いた。

担当者より

「ふなばしむかしむかし」は、人びとの暮らしや心を伝えてきた民話を、子どもが楽しく読める本にしました。紙芝居「ささ姫の恋」は海や川の生き物が登場、船橋の自然を伝える作品です。会員が30年かけて聞き取り、記録した中から話を選び再話する作業は大変でしたが、やり遂げてホッとしています。

支援金の書類作成は慣れないため骨がおれました。でも市の支援金がなければ出来ませんでした。心から感謝します。

コロナの影響で延期した講座は、終息後再開したいと思います。



団体概要

地域の古老を訪ね、話を聴いて記録し「ふなばしむかしむかし」という冊子を定期的作成している他、古くから伝わる風習や民話について、一般市民を対象にした講座を開催している。また、公民館まつりや老人福祉センター等地域のイベントに参加し、民話の語りを行っている。

連絡先 氏名: 荒石 かつえ TEL 047-424-5298 e-mail: 15ya.-othuki.san@ezweb.ne.jp